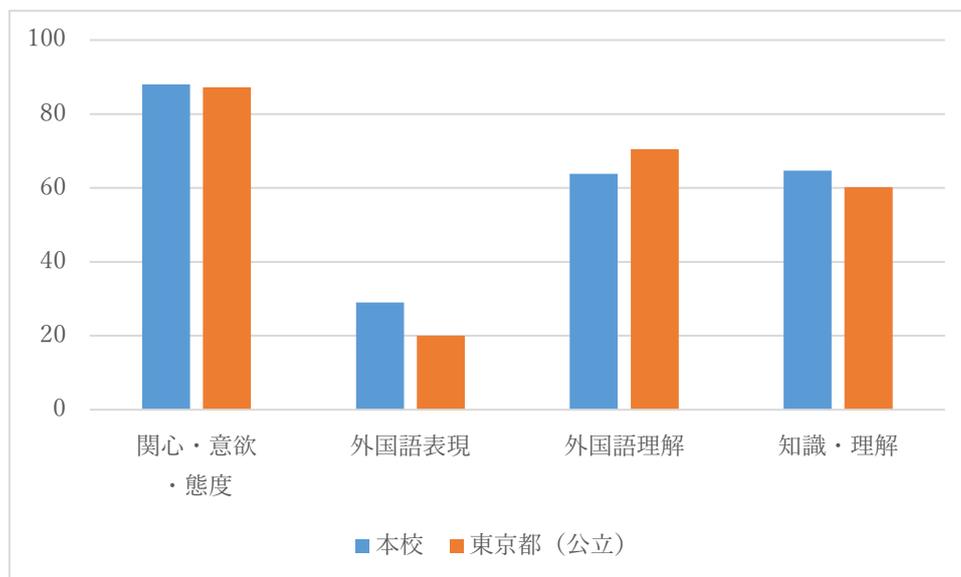


英語（児童・生徒の学力向上を図るための調査）

1 観点別の正答率についての分析

（1）英語：A 教科の内容

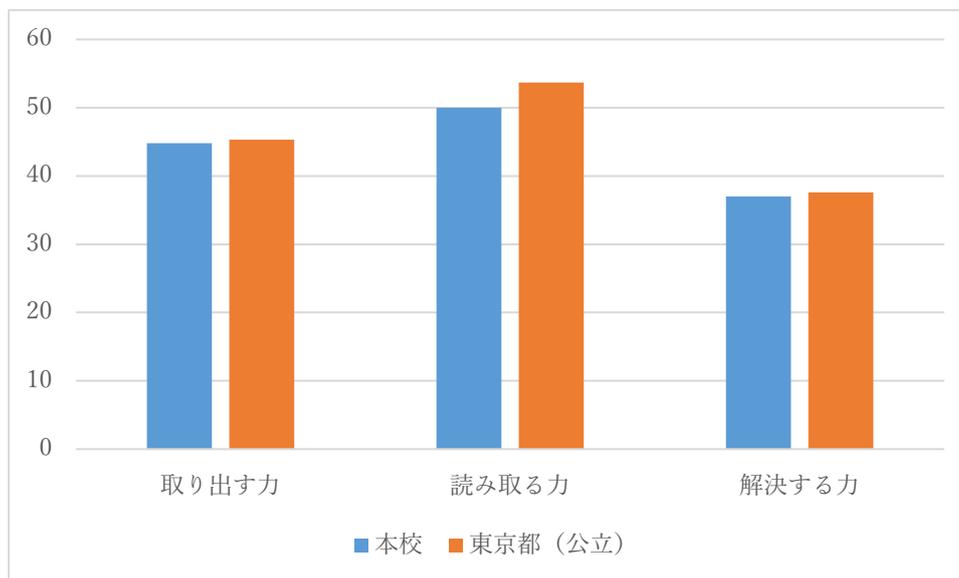


- ① 関心・意欲・態度、外国語表現、知識・理解の3観点について、東京都の正答率と比較すると上回っている。
- ② 外国語理解について、正答率を下回っている。

結果からの考察

「関心・意欲・態度」や「外国語表現」など、英語で伝えようとする意欲はある。一方で、「外国語理解」に関する問題の正答率が63.8%となっており、東京都の正答率と比較すると6.7%下回っている。日頃から「聞く」力や正確に英文から「読み取る」力を高めるよう、より一層指導していくことが必要である。

(2) 英語：B 読み解く力に関する内容



① どの力も東京都の正答率に近い。

結果からの考察

今回の結果からは、バランスよく力がついていることがわかる。どの問題もある程度の量の英文を読まないと解答に達しないので、日常的に 50 語程度の英文を読み、要旨を捉える取り組みをしていることが、読解力の定着につながったと考えられる。今後も読解力向上の取り組みを継続していく。

2 授業改善のポイント

- (1) 今回の結果を総合的にみると、A：教科の内容と B：読み解く力に関する内容の合計点は、東京都の正答率をわずかにではあるが上回っていることがわかる。よって、今後も英語を使うことを意識して授業展開をしていきたい。
- (2) 今後は、とくに「聞く」力や正確に英文から「読み取る」力の向上を目指して、指導内容と方法を吟味して授業を展開していく。生徒が目的意識をもって、学習活動に取り組めるよう指導を続けていきたい。